

2021年05月21日 デイリー版2面

造船/船用**【匠かんさい】****(56) 中日輪船商事、時代を創る おもしろい商社**

「時代を創る おもしろい商社を目指す」一。船用機器の専門商社、中日輪船商事のホームページに、佐井裕正社長が求めるべきビジョンとして掲げる言葉だ。「おもしろい」という関西弁で、市場や顧客に興味を持ってもらえるようなサービス、製品、取り組みなどを提案できる商社を目指すという意味。営業部門を総括する仙田昇常務取締役は「現代に求められているのはゼロエミッション。環境対策分野でさらに『おもしろい』提案をしていきたい」と力を込める。

創業は1915（大正4）年。社長の祖父、蔡謀匏（サイボウホウ）氏が、台湾で製造したパナマ帽の日本での販売拠点として「合資会社泉興利貿易」を現在の本社がある場所に設立したのが始まり。

戦災での業務停止後、49年に再開するが、そのきっかけは、現社長の父、重和（2代目社長）氏が、戦前から戦後の川崎重工業を経営トップとして支えた鑄谷正輔氏と自宅が隣同士だったこと。その親交が縁で川重に船舶用塗料の納入を始め、中国国営船社「招商局（台湾）」の船舶修繕を川重にあっせんする事業も開始するなど、船用事業を本格的に手掛け始めることになる。

その後、川重に香港ジョン・マナーズ社の新造船をあっせんしたり、ジョン社の商社部門を通し、東南アジアへエンジンやプロペラを販売したりするなど、着実に業容を拡大していった。

現在の業務内容は、 1.日本と中国の造船所向け船舶用機器の提案・販売 2.船会社・造船所向け船舶用環境対策機器の提案・販売 3.産業用塗料とパワーエレクトロニクス機器の提案・販売。

仙田常務は「最近20年1月のSOX（硫黄酸化物）規制により、スクラバー（排ガス浄化装置）の需要が高まり、新造船だけでなく、レトロフィット（既存船への搭載）工事も多くなっている。このため、これまでは造船所向けが中心だったのが、これを機に船会社向けの取り扱いも増えた」と話す。



仙田常務取締役



創業の地に建設された本社社屋

また、川重の中国合併会社、大連中遠海運川崎船舶工程（DACKS）と南通中遠海運川崎船舶工程（NACKS）を中心に、中国の造船所向けに日本の舶用機器を紹介。現地での機動力を高めるため、2006年に現地法人「船興利貿易（大連）有限公司」を設立し、南通支店と共に舶用・陸用機器や船用品を販売している。

15年に迎えた創業100周年。これを機にビジョン・ミッション・行動規範を策定し、翌16年に求めるべきビジョンとして「時代を創る おもしろい商社」を掲げた。

この「おもしろい商社」を目指すため、子会社「ワザアリコンサルティング」を同年に設立。船舶の設計・製造・品質管理などの技術コンサルティングを担う会社だが、スタッフ17人は造船所OBら65歳以上の技術者で構成しているのが特徴だ。

同社の社長を兼務する仙田常務は「スタッフは経験が豊富なメンバーばかり。彼らが近くにいると、お客さまの疑問をいち早く解消できるし、舶用機器の提案力が向上した」と“おもしろい”提案力発揮に大きな戦力になっているという。

一方、中期経営目標に掲げるのが「市場を越えてソリューションを提供する」。その目標実現に向け、16年から米国CRオーシャン・エンジニアリング社の日本総代理店としてSOXスクラバーの販売を開始したのを足掛かりに、昨年からはリチウムイオン電池、軸発電機、燃料ガス供給システム、燃料削減システムなどの取り扱いを始めた。リチウムイオン電池では陸上市場のパワーエレクトロニクス分野にも展開。引き続き市場で求められる環境対策で「おもしろい」商社を目指す

（第1・3金曜日掲載）

【会社概要】創業=1915年4月4日▽資本金=2000万円▽代表取締役社長=佐井裕正▽本社=神戸市中央区下山手通4-12-3▽電話=078・391・4397▽売上高=約57億円（20年3月期）▽従業員数=29人（20年3月現在）▽主要取扱品=船舶用工業製品、リチウムイオン蓄電池・関連製品、塗料・塗装関連製品、プラント用製品など